

途上国開発のためのネットワーキングをどのように推進すべきか

2006年8月3日

紀谷昌彦

<http://www.kiya.net>

1. 私とネットワーキングの出会い

- (1) 行政の将来を考える若手の会 (公務員行政研修 (課長補佐級))
 - (2) ワシントン DC 開発フォーラム (<http://www.devforum.jp>)
 - (3) バングラデシュ・モデル (<http://www.bd.emb-japan.go.jp/jp/bdmodel>)
 - (4) 平和構築フォーラム (<http://www.peacebuilding.jp>)
- 各自のネットワーキング体験は？

2. なぜネットワーキングが大事か

- (1) 「縦割り」「仕切られた競争」の弊害 フラット化の必要性
- (2) 政府と市民社会の新たな関係 = Policy Intellectuals の形成
- (3) 情報から更に進んで知見とアイデアの時代へ = 異業種交流、他流試合が鍵
組織を超えたネットワーキングの可能性と必要性を確信しているか？

3. ネットワーキングの技術

- (1) 松明 (たいまつ) を掲げる = 夢・情熱・エネルギーが一番大事 (「自燃人」)
- (2) 実行する = 信用される基本 = 人は言葉でなく実績でしか評価されない
- (3) 組織や人の間のさや取り (arbitrage) から価値を創造 = 「付加価値」が命
- (4) ハブを取りに行く = 「ナンバー・ワンしか記憶されない」
- (5) 小さくても万人に認められる独自の成果を上げる = 批判に対する防波堤
- (6) 強い奴を巻き込む = ネットワークを必要としない人こそ宝の山 (政府など)
- (7) 「情報過多時代」のコミュニケーション = 「キャラ出し」と「おそば感」
- (8) ICT の絶大なインパクト = 「情報系」の確立にはリーダーシップが必要
- (9) 「現世のご利益」と「公益志向」の接点を探る = 「人事系」の動機づくり
- (10) はっとさせる「驚き」が不可欠 = エンターテインメントの一種
- (11) 快適な「リズム」で鼓動を維持する = ネットワークは生命体
- (12) ハードルを下げる = 「いつもの場所」「いつもの時間」
- (13) ストーリーを作る = 後づけでも、将来につながる道筋を示す
- (14) 仲良しグループで小さくまとまらず、オープンなネットワークに
- (15) マネジメント能力は貴重な資産 高レバレッジで戦略的に活用
他のアイデアは？

4. 途上国開発のネットワーキングの課題

- (1) 日本国内を中心とした開発広報・開発教育 (NGO やユース団体との連携)
- (2) 分野別・テーマ別の知見の深化と発信 (2008年は大きなチャンス)
- (3) 国毎の関与 (現地 ODA タスクフォースからカンントリーチームへ更に発展)
私たちはどのような課題に取り組むべきか？これから具体的に何をするのか？

(以上)